ＢＣＰ策定で設備管理課題が明らかに
ー　紅不二化学工業式会社　ー

色素を化学合成して65年（企業概要）

紅不二化学工業株式会社は、1950年の設立以来65年、一貫して、食用色素（蒲鉾の赤色など）や入浴剤向け色素を、化学合成してきています。 以前は、色素関連の会社も多くありましたが、国内での色素需要減少の中、撤退会社から引き継ぐ品目が加わるなどもあり、文字通り少量多品目となっています。
これからも、需要が低下した色素でも、必要とするユーザーがいる限り供給責任を果たしたいと思っています。 その他、色素以外の化学薬品も製造しています。化学工場の宿命として、工場内の鉄構築物や製造装置は、錆びや痛みが早く、毎年、修理や更新に多大な費用を要しています。 BCP策定を契機に、社員の努力や創意が、製造面にのみならず、設備管理や防災にも傾注され、結果、地域に防災でも貢献できる工場となることを目指しています

工場外観

色素製造室

原子吸光計　色差計　分光光度計

イオンクロマト計　高速液体クロマト

社内・社外の連携でニーズ対応

当社では、ユーザーの様々な要望（クレームも含め）に答えるため、ユーザーとの対話に努め、取り組むべき課題を会社に持ち帰り、技術・製造部門と連携して解決に努めています。 今後も、この積み重ねが当社の持続する力になると考えています。また、化学会社では、取り扱う反応や薬品により、各社それぞれに得手不得手があることから、当社は、地域で複数の化学会社と提携することにより、技術の対応幅を広げるよう努めています。

高度な品質管理と分析装置

さらに、近年、化学品については、品質への要求が高まるだけではなく、国内外で化学物質への規制が厳格化しつつあり、当社も迅速に対応できるよう努めています。 そのために、原子吸光、色差計、イオンクロマトおよび高速液クロ等各種分析装置を揃え、高度な品質管理と工程管理を行っています。

BCP策定への取り組んだ理由

大震災後、BCPは必要と、２年ほど前、区主催セミナーに参加したものの、具体的に取り組むには至らず、先送りしてきましたが、今回、経営指導の先生より、簡易型BCP作成の提案を受け、やり遂げる決意で着手しました。
当社に とって取組み意義は以下にあると考えました。
（１） 会社経営に必要な書類・資料・情報を一冊にまとめる。２） OB・家族を含む社員の連絡体制、防災備品等の整備３） 災害発生時の初期対応のマニュアルと想定訓練。

紅不二化学工業 ㈱
代表取締役社長
岩間秀矩

策定にあたり特に注力した点

当社では、化学的な製法改良や品質向上に熱心に取り組むものの、機械設備の維持管理は不得手で、やや疎かになる傾向があることから、今回、BCP取り組みを通して、設備管理のレベルアップを果たしたいと考えました。 そのため、機械・設備の台帳を各作業場毎に再編集した台帳を配布し、各社員それぞれ担当の作業場で、機械設備の耐震性等、評価に取り組んで貰いました。 また、これまで主に、社長の手元に置かれてきた会社の基本書類を、一冊にまとめ、散逸防止と共に、社員が自由に閲覧し、当社事業と行政、及び仕入販売先のみならず修理や産廃処理依頼先など、事業に必要な外部との多面的な関係を理解する資料としました。

消火器の使用訓練

BCP策定の感想・効果

BCP策定過程において、大きな地震発生とそれによる被害を想定する中で、当社工場では、タンクや配管破損による強アルカリ液の漏出飛散が、最も問題になろうと予想されました。 そのため漏出修復に必要な化学防護服を２セットのほか、防災備品類を一揃い用意しました。 また、上記の準備に加え、社内で、BCPの意義や取組を繰り返し説明する機会を作ったことなどにより、社員の防災意識が高まり、家族を含めた連絡網の作成をはじめ、訓練時における各種施設の耐震性の点検評価など、全員が取り組み、スムーズに実施することができました。 今回、BCP策定は社長主導で進めてきましたが、今後は、社員による防災安全委員会が、職場の安全と防災、およびBCP改訂を担う主体となってくれることを期待しています。

事業者情報	
事業者名	紅不二化学工業株式会社
本社所在地	板橋区前野町３－３１－９
設立	１９５０年（昭和25年）
資本金	2,000万円
従業員数	１４名
代表者	岩間 秀矩
Tel	03-３９６９－７１７６（代表）
E-mail	benifuji@mvf.biglove.ne.jp